学校番号	２０１

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ｃ（文Ⅰ選+理Ⅱ）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	NEXT 数学Ｃ （数研出版）						
副教材等	新課程 CONNECT 数学Ⅱ+Ｂ+Ｃ［数列，統計的な推測，ベクトル］（数研出版） 改訂版シニア数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂ・Ｃ［ベクトル］受験編（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

Ⅰ・Ⅱ・A・B の知識なくして数Ｃ習得はあり得ません。２年までの範囲を完璧に理解してから臨むのがベストですが、なかなかそうはいかないと思うので、忘れている内容が出てくる度に、その部分へ戻れる環境と習慣を作っておいて欲しいと思います。

2　学習の到達目標

平面ベクトル、空間ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさ認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分	a: 空間のベクトルが 3 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることを理解し,具体的なベクトルを 3 つのベクトルで表すことができる。 b: 空間のベクトルが 3 つのベクトルの線形和で 1 通りに表される理由について,平面上のベクトルが 2 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることから説明できる。 c: 平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから,ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。	定期考査	定期考査	振り返り課題
		4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	a: 空間のベクトルの内積の定義が平面上のベクトルの内積の定義と同じであることを理解し,空間のベクトルの内積を求めることができる。 b: 位置ベクトルを活用して,図形の性質が考察できる。 c: 様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	定期考査	定期考査	振り返り課題
2	総合演習1	平面ベクトルと空間ベクトルの復習	a: 平面、空間ともにベクトルの内積を求めることができる。 b: 位置ベクトルを活用して,図形の性質が考察できる。 c: 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	定期考査	定期考査	振り返り課題
3	総合演習2	シニア数学演習で、ベクトルを中心とした復習	a:問題文からすぐにどの分野の問題かわかる。 b: 問題文からすぐにどのような公式が必要か判断できる。 c:あきらめずに復習しようとする。	小テスト	小テスト	振り返り課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度